

「博報賞」

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、1970年の財団設立とともにつくられました。

「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」という思いを核に、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。

また、活動が末永く継続・拡大できるよう、その成果を広く発信する支援も行っています。

2026年度 第57回「博報賞」受賞者一覧

公益財団法人 **博報堂教育財団**

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL(代表):03-6206-6266(平日9:30～17:30)
財団ホームページ:<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/> E-mail:hakuhoushou@hakuhodo.co.jp

主催 公益財団法人 **博報堂教育財団**

後援 文部科学省

受賞者一覧

(※敬称略・都道府県順)

【博報賞・文部科学大臣賞】

福島県	ひのえまた 檜枝岐村立檜枝岐中学校
宮崎県	宮崎県立 ごかせ 五ヶ瀬中等教育学校

【博報賞】

岩手県	盛岡市立城南小学校
東京都	清水 良 (東京学芸大学附属世田谷小学校 教諭)
新潟県	小川 高広 (上越市立板倉小学校 教頭)
福井県	福井市 あご 安居中学校
愛知県	岡崎市現職研修委員会 図工・美術部
愛知県	特定非営利活動法人 アジャスト
兵庫県	NPO法人 棚田LOVERS
広島県	広島県立三原特別支援学校 大崎分教室
山口県	柳井市立 いかち 伊陸小学校
熊本県	森内 和久 (尚綱 しょうけい 中学校・尚綱高等学校 講師)

【功労賞】

北海道	登別市立登別中学校
宮城県	おくだいら やまと 奥平 大和 (大郷町立大郷小学校 講師)
千葉県	吉田 たかし 隆 (松戸市立矢切 やきり 小学校 校長)
東京都	中野区立 さぎのもり 鷺の杜小学校
山梨県	早川町立早川北小学校
山口県	山口市立 おおどの 大殿小学校
宮崎県	さいと ちやうすばる 西都市立茶臼原小学校

【奨励賞】

東京都	み い だ ゆうき 三井田 裕樹 (筑波大学附属駒場高等学校 教諭)
神奈川県	守屋 みなみ (横浜市立永田台小学校 教諭)
福井県	坂井市立丸岡中学校
山梨県	みのぶ 身延町立身延中学校
京都府	むらさきの 紫野小学校区イベント実行委員会
大阪府	ふるひ さ よ 古樋 咲世 (大阪府立中央聴覚支援学校 教諭)
大阪府	秋吉 かずき 和紀 (関西大学第一中学校 教諭)
兵庫県	姫路市立安富中学校
広島県	かみやま 上山 朋子 (盈進 えいしん 中学校 読書科主任)
山口県	藤井 明美 (山口市立仁保 にほ 小学校 教諭)

※活動内容につきましては、当財団ホームページに掲載いたします。「博報賞 最新の受賞者」ページにてご確認ください。

【博報賞・文部科学大臣賞】受賞数 2件

受賞者名 (活動領域名)	所在地	審 査 講 評
ひのえまた 檜枝岐村立檜枝岐中学校 (日本文化・ふるさと共創教育) 【活動タイトル】 15歳の離村を支える山人文化教育 ～歌舞伎と名峰登山で育む 究極の郷土愛と非認知能力～	福島県 南会津郡 檜枝岐村	歌舞伎や三座登山という独自の教育資源が豊かな学習活動の成立を支えている。中学卒業と同時に親元を離れる「15歳の離村」に際し、地域に伝わる歌舞伎を演じる“度胸”と2,000m級の険しい三座を制する登山における“根性”を養い、真の強さと誇りを授けて自立に導く活動は見事である。指導の核心として教員が「教えずがない」勇気を持ち忍耐強い「見守り」を行うなど、生徒主導で創造的参画に至る教育方針が明確である。15歳という期限を逆手に取り、限られた時間のなかで郷土愛を核に濃密な学びを保障する教育設計が活かしている。
ごかせ 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) 【活動タイトル】 天に学び地に学び人に学ぶ、 感動と感性の教育とフォレストピア探究30年	宮崎県 西臼杵郡 五ヶ瀬町	6年間の探究活動で育成する資質・能力を、「見る力」「問う力」「試みる力」「関連づける力」「つながる力」の「5つの視点」で明確にし、生徒一人ひとりのよさや成長を継続的に見取っている点を評価した。共通の視点を基に自己評価・相互評価、形成的な評価を充実させ、生徒の主体的な学びにつなげている。さらに、本物の体験を探究の起点として教育課程に位置づけ、多様な団体との連携を「コンソーシアム」として体制化している。30年にわたり地域と共に持続可能な探究の仕組みを築いてきた実践は、これからの教育に示唆を与える。

【活動タイトル】
15歳の離村を支える山人文化教育
～歌舞伎と名峰登山で育む
究極の郷土愛と非認知能力～

【博報賞】受賞数 10件

受賞者名 (活動領域名)	所在地	審 査 講 評
盛岡市立城南小学校 (国語教育) 【活動タイトル】 学びの実感を持ち、 自ら学び続ける子どもの育成	岩手県 盛岡市	OECDによるAARサイクルを取り入れた学校全体の取り組みが、大切な言語能力を一人ひとりの子どもが身につけるための支援になっている。応募書類にあった説明的文章の単元のように、教材や言語活動に焦点化した目標ではなく、要約の仕方を学ぶといった理解のための方法(理解方略)に関する目標を掲げながら、国語教育実践に取り組み、大きな成果を挙げた。「分かる」実感を味わい、国語で学んだことを言語生活に活かす子ども、学校の学びに終わらない本物の学びに夢中になる子どもを着実に育てている。
清水 良 (東京学芸大学附属世田谷小学校 教諭) (国語教育) 【活動タイトル】 わたしのお弁当自慢	東京都 世田谷区	対象となっている単元実践は素晴らしいもので、ことばと体験をつなげ、子どもの視野を広げる充実したものである。「お弁当」「食」という生活上子どもたちに身近な素材を取り上げたことで、子どもたちから「本質的な問い」が生み出されている。また、衣食住という基本的な領域が、ことばに関する豊かなリソースであることを改めて気づかされる実践であった。どのようにすれば、ことばと生活経験の探究により、ことばを学ぶ喜びを子どもたちが自分事にすることができるのか、ということについて多くを教えられた。国語単元学習の理想の姿を示している。
小川 高広 (上越市立板倉小学校 教頭) (国語教育) 【活動タイトル】 物語を演じ、ことばを身体で実感しながら自立した読者へ成長する国語授業	新潟県 上越市	「物語を演じる」活動を中心に据え、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の活動が無理なく設定されることにより、子どもたちの主体的な学びを引き出し、ことばの力の育成につなげている点が高く評価できる。個の学びと協働の学びが効果的に組み合わせられている点も示唆に富む。 年間を通して「物語を演じる」授業実践を複数回行い、さらにそれを複数年積み重ねることで、子どもたちの発達に関する考察を行うなど、一貫性のある実践であり、またその往還により大きな成果を挙げている。

【活動タイトル】
学びの実感をもち、
自ら学び続ける子どもの育成

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
福井市^{あこ}安居中学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 AGOむすび ～地域と人、過去と未来をつなぐ町づくり～	福井県 福井市	「子どもの参画によって地域が学び直し、学校と地域が共に成長していく教育の循環を生み出している」、候補者が自己評価したコメントである。まさにプロジェクト型学習「AGOむすび」の本質だと納得した。OECDのEducation 2030によるウェルビーイングを目指した教育改革の理念をベースにしている安居中学校版のAARの実践は特筆できる。「ふるさと共創」とは、子どもが笑顔になり、地域の人々に元気を与えてくれることである。どちらか一方に効果を生むのではなく、共に新たな発見をしながら笑顔で前に進んでいく活動なのだという気づきをもたらした。
岡崎市現職研修委員会 図工・美術部 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 造形おかざきっ子展	愛知県 岡崎市	図画工作・美術科の教員の不足が深刻化するなかでも、児童生徒の作品を展示しようとする教師たちの地道な取り組みは全国で行われており、こうした教師の自己研鑽の文化によってこそ、日本の公教育の質の高さが支えられていることが、もっと社会に知られる必要がある。なかでもこの活動は、市内の全児童生徒の作品を展示する点、野外に展示する活動である点、展示して終わりではなく展示を通して指導力を向上させようとする試みが明白である点、その伝統を60年以上にわたって継続してきた点に独自性があり、これら4点が高く評価された。
特定非営利活動法人 アジャスト （国際文化・多文化共生教育） 【活動タイトル】 外国につながる子どもたちの学びと進路を拓くさくら教室	愛知県 犬山市	外国につながる子どもたちのニーズを言語習得の面のみならず、発達の面からも丁寧に捉え、子どもと保護者が直面する課題に配慮しながら、支援活動を継続されてきたことを評したい。また、支援される立場にとどまりがちな子どもたちの「地域社会の役に立ちたい」という思いを社会参加として実現する活動は、子どもたちの自己効力感を高め、社会との関わりで「なりたい自分」を描く機会になったとも捉えられる。 発達特性のある、外国につながる子どもたちの支援は大きな課題の一つであるため、活動の知見の積極的な発信を期待したい。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
NPO法人 柵田LOVERS （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 柵田が育む「ことば」と生きる力 ～自然・人・ふるさとが子どもを育てる～	兵庫県 神崎郡 市川町	日本の原風景である柵田を、自然・農業・文化・人の営みが一体となった「生きた教室」として、幅広く日本文化・ふるさと共創教育を展開している。子どもたちが地域の自然や文化、人との対話を通して主体的に学び、活動そのものを育てていく仕組みが整っていることも素晴らしい。活動を継続することで支えられる側から支える側となり、地域の多様な人々が単なる参加者ではなく、自ら考え、行動し、地域の未来を担う人材として地域文化を学び、継承していくシステムが循環していることも高い評価につながった。
広島県立三原特別支援学校 大崎分教室 （特別支援教育） 【活動タイトル】 島民をつなぐカフェ ～応援したくなる学校から 共に地域を創るパートナーへ～	広島県 豊田郡 大崎上島町	特別支援学校の児童生徒自らの「願い」や「思い」を教育活動の原動力とし、地域との連携・協働のもと、児童生徒の主体的な学びの実現に向けた実践を継続してきた活動である。特に12年間継続されてきた「縁カフェ」の取り組みは、接客技能の習得にとどまらず、商品開発や地域交流へと発展し、児童生徒の自己有用感や社会参加への意欲を育んでいる。地域住民同士をつなぐ交流の場として定着し、障がい理解の促進や共生社会の実現に大きく貢献しているなど、社会に開かれた教育課程を具現化した先駆的かつ汎用性の高い実践として高く評価できる。
柳井市立^{いから}伊陸小学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 ふるさとを愛する伊陸っ子の育成 ～伊陸神楽を通して～	山口県 柳井市	3学級の小さな小学校の高学年15人の児童が「伊陸神楽」を学んでいる。ふるさとの伝統を守るため、総合的な学習の時間に位置づけられ地域の「伊陸神楽保存会」と交流しながら進めている。過去のコロナ禍を乗り越え、タブレットというICTを活用しながら先輩・後輩の関係で協働的な活動を充実させている。低・中学年の児童19人は、先輩へのあこがれの気持ちからスタートし、先輩に追いつこうと努力を重ねる過程で、次第にふるさと伊陸への郷土愛を培っていく。少人数学級の兄弟姉妹のような児童の関係性を上手に活かしている。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
森内 和久 （尚綱中学校・尚綱高等学校 講師） （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 人和社会を結ぶART&ENGINEERING 「架け橋プロジェクト」	熊本県 熊本市	現実の社会的課題の解決を目指し、美術的デザインを工学的な設計知識と融合しつつ学ぶ一連の学習活動は、まさに科学とアートが融合したSTEAM教育の理念を体現したものである。2016年熊本地震の被災経験から着想を得たといい、防災やインフラ整備という社会的課題に対し、科学とアートを融合して迫り生徒を育てようという意識がリアルで切実であり、高く評価された。熊本は不幸にも2026年に2度目の大地震に襲われており、森内氏の実践の先駆性と提起した問題の重要性が、一層明らかになっている。

【功労賞】受賞数 7件

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
登別市立登別中学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 地域と共に歩む生徒が主体的に取り組む伝統芸能「熊舞」の継承	北海道 登別市	登別市の地獄まつり等で披露される「熊舞」は、ユーモラスかつ力強い舞と音色が特徴的で、生徒の躍動感が伝わってきた。地域を代表する伝統芸能を22年にわたり中学生が継承してきたことにより、生徒の主体性と社会貢献意識の向上など多様な教育効果につながっている。地域の一員として「熊舞」の歴史や背景を学び、学校内で後輩たちに伝えていく活動から責任感が育まれ、仲間と協力して一つのものを創り上げる経験は達成感と地域への愛着を深めてきた。「熊舞」への取り組みは、生徒の成長にかけがえのない学習機会となっている。
おくだい やまと 奥平 大和 （大郷町立大郷小学校 講師） （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 食の担い手を未来につなぐ食育教育 ～食の素性と共食に学ぶ食育実践～	宮城県 黒川郡 大郷町	「食と農」をライフワークとして質の高い教育・研究活動を行い、長年にわたり意義深い食育実践を実直に重ねてこられたことに敬意を表したい。学校を一軒の農家と見立て、各学年における学びの有機的なつながりをもたせていく考え方も画期的である。多様な教科の特性を活かしつつ学校の教育活動全体を通じて、子どもたちが作物を栽培・収穫・分配・共食して食の知識と経験を重ねながらさまざまなつながりに気づくことにより、食を通じた地域社会の担い手を育む食育教育が展開されている。実感を伴う地域学習の在り方として参照したい。
たかし 吉田 隆 （松戸市立矢切小学校 校長） （国語教育） 【活動タイトル】 「音読大賞」全校のみんなに あなたの音読を聞いてもらおう！	千葉県 松戸市	給食時の「放送」を活用して音読を行うことで、子どもの主体性を引き出し、ことばの力や自己肯定感を育てている点が高く評価できる。子どもが安心して発表できるための細やかな手立てや、4校にわたり活動を積み重ねている姿から、子どもの意欲や、読解力、表現力等、さまざまな力を引き出し伸ばしたいという強い願いが伝わってくる。 音読活動の実践は、音読を聞く姿勢や工夫を聞き取る力の向上にも寄与している。さらに、相手を認め合う学校全体の雰囲気は、子どもたちが音読以外のさまざまな活動に意欲的に取り組むことにつながっている。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
さぎのもり 中野区立鷺の杜小学校 （国語教育） 【活動タイトル】 鷺宮方式による音読・暗唱の主体的な学習 ～学校と地域の連携と協働による～	東京都 中野区	鷺宮小学校から引き継がれた音読・暗唱実践が大切に継続されていることに感銘を覚えた。「しらさぎ音読の会」との週1回20分間の取り組みの継続によって、子どもたちは日常で会ったりことばを交わしたりすることのない存在でも、ことばでつながることができるという実感を手にしたことだろう。そして「聴く」ということが教育活動として大きな意味をもつことを知らせてくれる実践でもある。音読・朗読にとどまらず、人の話を聴いたり、文章を読んだりする際の子どもの姿勢にも少なからぬいい影響を及ぼしていることを教える実践でもある。
早川町立早川北小学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 開校50年のバトンを5人でつなぐ！ 地域を愛する心を育む伝統の民話劇	山梨県 南巨摩郡 早川町	指導者である教師陣が、置かれた教育環境を前向きに捉え、地域社会や少人数学級がプラスに働くように工夫している。極限の少人数の学校において、地域社会との連携で活かせる3つの普遍的なポイントを見出したことは貴重である。総合的な学習の時間の全体計画に位置づけられた教育課程のなかで、地域社会と少人数学級が互いのよさを活かした「学びの往還」ができている。こうした活動では必ず地域と子どもたちをつなぐキーパーソンが汗をかいている。今後はこうした方の動きにクローズアップして紹介されることを期待する。
おおどの 山口市立大殿小学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 未来に輝き羽ばたけ！大殿ホタル！ ～学校と地域で守り続けた軌跡～	山口県 山口市	ゲンジボタルという自然教材を学ぶことにとどまらず、児童は文化や自然を大切に守り、次世代に引き継ごうと努力している。地域住民に対して児童が教師と共にインタビューしている動画を見て、その点がよくわかった。児童は誰もが純粋な目で、地域の方に問いかける。これに対して、誠実に一つ一つ丁寧に説明する地域住民。地域住民も素直な児童の姿から教えられる点も多く、大殿ホタルの保護というテーマを通して、互いに学び合う往還ができている。人口減少の激しい地方におけるコミュニティスクールの在り方の好事例として推奨できる。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
さいと ちゃうすばる 西都市立茶臼原小学校 （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 相信相愛の心で拓く地域の輪 ～三者連携の体験教育と 世代を超えた環境愛護～	宮崎県 西都市	石井十次の「相信相愛」の精神を基盤に、学校、社会福祉法人石井記念友愛社、地域が関わり合いながら、子どもを共に育ててきた点を評価した。茶摘みや手もみ茶、飴づくり、福祉施設での車いす清掃、「みどりの少年団」による緑化活動など、地域の人・自然・文化と関わる多様な体験が、総合的な学習の時間の探究や具体的な行動へとつながっている。さらに、小規模特認校として少人数のよさを活かし、一人ひとりのよさを丁寧に見届けながら、地域のなかで認められる実感を育む取り組みは、学校・福祉・地域の協働による教育の可能性を示している。

【奨励賞】受賞数 10件

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
み い だ ゆうき 三井田 裕樹 （筑波大学附属駒場中高等学校 教諭） （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 数学の魅力を、カタチに	東京都 世田谷区	数学者の功績や数学史上のエピソードを調べ、その魅力をゲームとして再構成し、他者に発信していく探究である。調査を通して数学への理解を深め興味・関心を広げるだけでなく、獲得した知識を目的意識や相手意識をもって表現する過程に価値がある。さらに、試作品へのアンケートや外部評価を基に改善を重ねることで、生徒はクリエイターとして試行錯誤する経験を積んでいる。デジタル技術の進展によりアイデアを形にしやすい時代に、知識を解釈・再構成し、試作と改善を繰り返しながら新たな価値を創造する学びの独創性を評価した。
守屋 みなみ （横浜市立永田台小学校 教諭） （独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動） 【活動タイトル】 「夢中になって学び続ける子ども」の育成に向けて	神奈川県 横浜市	大都会の真ん中で、ヤギのような大型の動物を飼うことには、大きな躊躇があったことだろう。このリスクを冒してもなお、「子どもが夢中になる」姿を目指して学習材を選択し、その飼育に挑戦する教師の姿、さらにはその挑戦を支援した学校の姿にこそ、真の教育がある。また、令和時代のユネスコスクールにおける最先端の取り組みが、大正時代以降の総合学習の伝統（例えば長野県伊那市立伊那小学校における大型動物飼育の実践）の要所と、本質的に共通することを実証しており、この点も高く評価された。
坂井市立丸岡中学校 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 丸岡LOVERS（ふるさと探究学習）	福井県 坂井市	探究型の総合的な学習の時間として中学3年間の体系だった学びの構造が確立されている。地域で得た学びと発信活動が常にセットになっていることも学習活動の充実につながっている。「丸岡LOVERS」の取り組みを通じて、生徒の「地域に貢献したい」思いが劇的に向上していることも注目に値する。生徒の「ふるさと丸岡の魅力を発信したい」という主体的な願いを出発点に、地域の多世代をつなぐ持続可能な「地域協働プラットフォーム」を確立し、生徒も教員も面白がって活動している躍動感と「学ぶ楽しさ」が伝わってくる。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
みのぶ 身延町立身延中学校 （国語教育） 【活動タイトル】 読書活動を基盤とした学習文化の形成～ことばの力の育成を図る取り組みを通して	山梨県 南巨摩郡 身延町	朝読書をはじめとして、読書にまつわるさまざまな活動が展開されており、図書委員会が中心となり生徒が主体的に取り組んでいる点が高く評価できる。読書が個人の活動に終始するのではなく、感想や考えを通して友達と交流するなど「共有し広げる営み」につながっている。また、統合前の4校の思いや伝統を大切にしながら、身延中学校の大切な活動として成長させてきた様子が伝わってくる。 読書活動をNIEや朝鑑賞などに広げている点も特徴的である。読書活動をきっかけとして幅広いことばの力の育成につなげており、多くの示唆に富む実践である。
むらさきの 紫野小学校区 イベント実行委員会 （日本文化・ふるさと共創教育） 【活動タイトル】 小学校統合を契機とした子ども主役の地域協働実践プロジェクト	京都府 京都市	2023年度の第54回「博報賞」からこれで連続4年間の応募である。毎年地域に根差した新しい試みに挑戦している。このイベント活動を継続することにより、紫野小学校区の地域に新しい形のコミュニティの姿が見えてきた。地域の各種団体がフラットな横のつながりという関係性を保ち、多様な世代が関わるようになっていく。地域や学校がその影響力を認めたために、児童・保護者の地域へ対する評価がさらに高まり、先輩・後輩の連携から持続可能な仕組みが生まれてきている。これからも持続可能な実行委員会としてさらなる挑戦に期待する。
ふるひ さよ 古樋 咲世 （大阪府立中央聴覚支援学校 教諭） （特別支援教育） 【活動タイトル】 「自分を語ることば」を紡ぐ～聴覚支援学校の通級指導教室の実践～	大阪府 大阪市	難聴をはじめ特別な支援を必要とする子どもたちは、教室のなかでできるだけ目立たないようにしている。自分のことを分かってもらえない、自分のことを言いたくない、言ったりするといじめられるかもしれないといった気持ちをもちやすい。古樋氏の実践は、そのようなパワーレス状態にある子どもたちが自らを語る主体へと変容させた価値ある実践である。実践方法は生きることと苦戦している子どもたちの支援に大いに参考となる。ピア活動の支援上の意義を示した成果も大きい。古樋氏の実践は、共生社会の形成に向けた貴重な手がかりとなる。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
かずき 秋吉 和紀 (関西大学第一中学校 教諭) (国語教育) 【活動タイトル】 読書活動を内包した創作活動の試み ～短歌創作を中心に～	大阪府 吹田市	国語科における問題意識の下、創作活動と読書活動を効果的に組み合わせ、生徒のことばの力の育成につなげている点が高く評価できる。教室のなかだけに閉じない、生徒自身が納得できる目標や課題意識となるような手立ては、生徒が主体的に活動に取り組み、自らの読みを深めたり、自らの書いたものを吟味したりすることにつながっている。 「手段のための読書」を取り入れることで、さまざまな種類の読書があることに気づき、読書の意味・意義についても、実感を伴い考えることができる。ことばの力を育むうえでさまざまな示唆に富む実践である。
姫路市立安富中学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) 【活動タイトル】 安富町花あじさい復活プロジェクト	兵庫県 姫路市	かつて町花であったあじさいがシカの食害で激減した現実に向き合い、「自分たちの手で復活させたい」という願いから探究を始めた点を評価した。専門家や地域から学び、挿し木・育苗・植栽に加え、アクアポニックスによる循環型の育苗やハーブを活用した食害対策、そのハーブを活かした調理実習、また英語・中国語によるPR動画の制作・発信など、教科等横断的な視点で教育課程を編成し実施した。こうした学びは、生徒の興味・関心を広げたり深めたりすることにつながり、環境保全や観光、地域活性化へと課題を更新する独創的な実践である。
かみやま 上山 朋子 (えいしん 盈進中学校 読書科主任) (国語教育) 【活動タイトル】 「読書科」の共育改革10年の歩み	広島県 福山市	とても重要な読書教育の取り組みで、「探究」との関連も綿密に考えられており、多くの学校に知ってもらいたい。3年間の「読書科」カリキュラムは、同じ本を皆で読んでいくことで、生徒たちが各自の思考を深められるように組み立てられている。選書も3年間を通して周到に考えられている。読書の社会性を意識し、「皆で読む」意義を十分に活かしたカリキュラムである。3年の「修了論文」を書くために生徒は自発的に選書をする。修了論文に取り組む際のポイントも資料等によって丁寧に示されており、生徒が安心して取り組むことができている。

受賞者名（活動領域名）	所在地	審 査 講 評
藤井 明美 (にほ 山口市立仁保小学校 教諭) (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) 【活動タイトル】 ここからできる学習をDCAPサイクルで行い主体的に生きる子どもを育む	山口県 山口市	「総合的な学習の時間」の新設から28年が経過し、学習の質を深めている学校がある一方で、児童生徒の興味関心と無関係に単元テーマが固定化されている学校も少なくない。この状況そのものを課題として認識し、初心に返り、子どもたちが本気になって悩んだり考えたりする姿を見たいと、単元開発のコツを探究していた点が評価された。またその試行錯誤の様子を学校全体に公開しつつ、新人教師を育てる方法を「示す」「見せる」「一緒に考える」として提起した点も、子どもの学び合いを支える教師の学び合いの姿として評価された。